



TOKYO NEWS FLASH

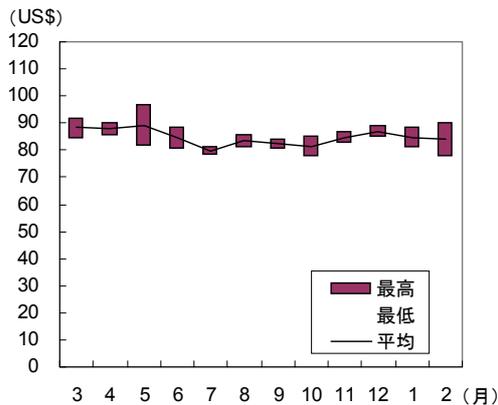
米国食肉輸出連合会 (USMEF)

Volume 234 February 17, 2003

米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

去勢牛の 100 ポンド (約 45kg) 当たりの価格
(オクラホマシティー・体重 600～700 ポンド)



資料 : Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain

- 注 :
- 1.2002年3月～2003年2月までのデータ
 - 2.該当月の第1週のデータより作成 (2002年9月および2003年1月を除く)
 - 3.2002年9・11月はイヤリングビーフ (若齢牛) による
 - 4.2002年12月は体重650～700ポンドのイヤリングビーフ (若齢牛) による

牛肉市況 (2月3～7日)

● 週間と畜頭数 :

65万5,000頭 (前年比3.3%増)。今年最初の4週間では、去勢牛・未経産牛のと畜頭数は前年比2～3%減、肉牛は前年と変わらず。一方乳用牛は、前年比で約10%増えているため、今後の牛乳価格に良い影響が期待される。

● ボックス・ビーフの取引価格

(7日正午/1ポンド [約0.45kg] 当たり) :

ボックス・ビーフは、2週連続の安値から回復し、チョイスは約1.30ドル (前週比2.63セント高)、セレクトは約1.24ドル (同2.71セント高) で取引。

● 主要5地域の去勢牛の取引価格

(100ポンド [約45kg] 当たり) :

2月6日までの平均価格は、枝肉重量ベースで126.09ドル (前週比3.30ドル高)、生体ベースで81.44ドル (同2.43ドル高)。

● 去勢牛・未経産牛の枝肉重量 :

今年最初の4週間では、去勢牛は前年比5～6ポンド (約2.27～2.72kg) 増、未経産牛は同1ポンド (約0.45kg) 増。昨年1月は、いずれも前年を30ポンド (約13.59kg) 上回っていた。

オクラホマシティーにおける去勢素牛の体重別、100ポンド (約45kg) 当たりの価格 (US\$)

体重 (ポンド)	2月3～7日
400～500	99.75～110.00
500～600	86.50～105.00
600～700	78.00～90.25
700～800	78.50～84.00
800～1000	73.85～80.75

(Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain, 2/07/2003)

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (2月3～7日)

● 週間と畜頭数 :

188万8,000頭 (前年比2.6%増)。1月の枝肉重量は前年と変わらず。例年以上の冷え込みに見舞われている今年は、春の訪れまで、と畜重量は軽めに推移すると見られる。

● 肉豚の先物取引 :

今週は軟調で、2月物は48.45ドル、4月物は53.77ドル、5月物は58.20ドル、6月物は61.45ドルで、それぞれ前週比約2.00ドル安で取引。大きな問題は、肉豚のと畜頭数が、12月の『Hogs and Pigs』の予想を上回る水準で引き続き推移していること。昨年12月1日以降のと畜頭数は、前年を1.1%、12月に行われた肉豚市場在庫調査の推定を2.2%、それぞれ上回っている。1月31日発表の米農務省 (USDA) の月間調査によれば、12月の繁殖頭数は前年比わずか0.6%減。このことから、(カナダ産の肉豚・子豚の輸入が堅調に推移すれば) 今年6月のと畜頭数が前年に近いレベルに達するという、市場がまったく予期せぬ事態に陥る可能性が示唆されている。昨年6月の現物市場における肉豚価格は、枝肉ベースで平均49.50ドル、生体ベースで36.60ドルに留まった。

●肉豚・枝肉の取引価格

(100ポンド [約45kg] 当たり) :

末端市場における生体肉豚の取引価格は、前週比2.00～3.00ドル減の大幅安値となったが、枝肉価格は西部では微減、東部では高値で推移。

主要市場における100ポンド(約45kg)当たりの最高価格(US\$)

	2月7日
ペオリア	32.50
セントポール	31.50
スーフォールズ	31.50
ミズーリ中央部	32.50

185ポンド物(約83.5kg)の枝肉平均価格(US\$)

	2月7日
東部トウモロコシ地帯	47.57
西部トウモロコシ地帯	45.86
アイオワ・ミネソタ	45.82
全国	46.56

1ポンド(約0.45kg)当たりの豚肉の製品価格(2月7日正午/USセント)

製品名	価格 (前週比増減)	備考
ロイン	94.0 (-2.43)	21ポンド(約9.51kg)未 満、トリム1/4インチ
ポストン・ バット	58.0 (+2.00)	卸売価格
ハム	47.0 (-1.00)	17～20ポンド物 (約7.70～9.06kg)
ポークベリー	78.0 (±0.00)	12～14ポンド物 (約5.44～6.43kg)

(Cattle—Glenn Grimes & Ron Plain, 2/07/2003)

業界ニュース

原産国表示制度、残る問題点

米国農業連合会(AFBF)は、USDAが原産国表示制度の実施に向けて準備を進めていることを歓迎しつつも、同制度の記録保持要件と表示条件について懸念している。

2002年施行の農業法に基づき、USDAは農産物数種について原産国自主表示ガイドラインを発行した。これにより、生鮮および冷凍の牛肉、子牛肉、ラム肉、豚肉、魚肉、果物、野菜、落花生は小売段階で原産国の表示が可能となった。同法は2004年9月までに小売段階での原産国表示を義務化するよう定めている。

USDAの農業市場局(AMS)は昨年11月、原産国表示制度の記録保持要件遵守のための生産者負担が10億ドル近くになるとの試算を発表した。これに対してAFBFは「提案されている記録保持システムを実施し、維持して行くために生産者が負担するコストの合計はさらに高く、20～28億ドルになる」とのコメントを発表した。

USDA経済調査局(ERS)のエコノミストは、原産国表示システムは、国内の牛肉・ラム肉製造業者にとって、コストの負担が大きい割には恩恵が少ないと説明している。消費者が食品の産地を気にするのであれば、国内業者はそれを表示することで輸入業者より優位に立つことができるが、もし消費者が原産国など気にも留めなければ、それを表示する意義はなくなってしまおうという。また、仮に食料品店や食肉パッカーが原産国を表示すれば、コストだけかかって何の恩恵も受けられないことになるとも話している。

(Farm Bureau News, 1/20/2003)

ブッシュ大統領、フードセーフティープログラムに史上最大規模の予算を提案へ

ブッシュ大統領は、2004年度予算の中で、農業保護システムの強化に一層力を入れるとともに、USDAの食肉・家禽肉食品衛生プログラムに史上最大規模の財政支援を行う予定だ。

USDAの会計2004年度フードセーフティー予算案は、2003年度要求を4,200万ドル上回る7億9,700万ドルとなる見込みで、会計2000年度以来、率にして20%、額にして1億4,800万ドルの増加となる。2004年度予算は7,680人の食品衛生検査官、検査要員の専門研修、微生物検査・サンプル採取件数の増加、海外調査プログラムの強化、消費者教育の充実などに使われる。

またUSDAの予算案には、フードセーフティーシステム強化を狙った複数のプログラムに対する新規拠出として、別途7,000万ドルが含まれている。これには研究室の安全対策強化、生物安全対策、動物の疾病・ワクチン研究、動植物の疫病・疾病監視のための追加プログラムが含まれることになる。

(United States Department of Agriculture, 1/23/2003)